

バド・クレイグ著

# 『我感ずる、ゆえに我あり』 —内受容感覚の神経解剖学—

## 出版記念シンポジウム

バド・クレイグ著『我感ずる、ゆえに我あり—内受容感覚の神経解剖学』が出版された。クレイグは、身体内部の知覚である内受容感覚について神経解剖学、神経生理学、認知神経科学の観点から先駆的な研究を行ってきた。本書には、その成果が活写されている。折しも、心理学や認知神経科学では、感情、意思決定、そしてこころの源泉としての内受容感覚への関心が高まっている。その意味で、本書の出版は時宜を得ている。

そこで本シンポジウムでは、本書の出版を記念してクレイグの研究業績を振り返り、生物や人間を理解する上で内受容感覚の意義を考察したい。

日時：2022 年 8 月 22 日（月）13:30-17:00

場所：対面とオンラインのハイブリッド開催

- ・対面：名古屋大学文学部 237 講義室（事前申込制）
- ・オンライン：Zoom にて視聴（事前申込制）

### プログラム

13:30-13:40	主催者挨拶	大平英樹（名古屋大学）
13:40-14:50	基調講演	花本知子（京都外国語大学：翻訳者） 「翻訳の舞台裏から見た『我感ずる、ゆえに我あり』の魅力 —クレイグを読む困難と愉しみ—」
14:50-15:00	休憩	
15:00-15:25	講演 1	佐々木拓哉（東北大学）「内受容感覚の神経経路」
15:25-15:50	講演 2	寺澤悠理（慶應義塾大学）「How do you feel? - Then and now.」
15:50-16:15	講演 3	大平英樹（名古屋大学）「セレンディピティー内受容感覚研究におけるひらめき—」
16:15-17:00	全体討論	

下記のサイトから 8 月 19 日(金)23:59 までにご参加をお申し込みください。

<https://forms.gle/fvDpBUCQ9sD4e1rt7>

お問合せ：Interoceptive2022★gmail.com（★を@に変えてお送りください）